

学部等経営

(1) 小学部

1 目標

「明るく元気に 生きる力を育む」

2 小学部が大切にしている取り組み

(1) 教育活動

- ・ 個別の指導計画に基づいた授業実践により、意思の表現を育む指導の工夫をする。
- ・ 発達段階に応じたキャリア教育を進める。

(2) 進路支援

- ・ 進路学習を通して小学部卒業後の進路や将来の生活への意識を育てる。また、保護者に対して進路及び生活支援について情報を提供し、理解と協力を求める。

(3) 交流及び共同学習

- ・ 交流校と連携し、関わり合いを通してお互いを理解する機会とする。

(4) 保護者との連携

- ・ 個々の課題を明らかにし、保護者と連携して取り組む。

(5) 地域・福祉

- ・ 県立療育センター及び医療・福祉機関との連携を図る。

3 主な年間行事と学習の様子

小学部は学校生活の基盤となる諸能力を培うため、一人一人の児童に合わせた身体作り、認知面の伸長などに力を入れている。さらに、興味関心を広げ、自分の意思を表現し、周囲（社会）との関わり、より豊かな生活を目指して取り組んでいる。

～ 年間行事 ～

- ともだちになろう会 ○児童会活動 ○小学校交流 ○校外学習 ○お話し会
- クリスマス会 ○卒業おめでとう会



「特別活動」ともだちタイム
ゲームや遊びをとおして、集団活動のルールを学びます。



「学部行事」クリスマス会
出し物をしたり発表したり歌をみんな
で歌ったりします。この他、様々な季節
行事に取り組みます。

(2) 中学部

1 目標

「学ぶ意欲を育て 生きる力を培う」

2 中学部が大切にしている取り組み

(1) 教育活動

- ・ 個別の指導計画に基づき、生徒の意欲を引き出し充実した学習活動を展開する。
- ・ キャリア教育の視点に立った学習活動を推進する。

(2) 進路支援

- ・ 中学部卒業後の見通しや進路先決定に向けた情報提供や場の設定をし、生徒が主体的に進路選択する力を育む。

(3) 交流及び共同学習

- ・ 学校間、居住地校との交流及び共同学習を通し、同世代と意欲的に関わる気持ちを育て、相互理解を図る経験を広める。

(4) 保護者との連携

- ・ 個別の課題を共に明確化し、課題解決の手立てを示し、評価を確認し合う等連携を図る。

(5) 地域・福祉

- ・ 医療、福祉機関との連携を密にする。

3 主な年間行事と学習の様子

中学部は、学校生活で身に付けた生活リズムや人、ものに関わる力を基に、社会生活に必要な様々な経験の拡大を図ることを目指し学習に取り組んでいる。また、生徒個々の可能性を伸ばし、社会自立に向けた生活力の向上に努めている。

～ 年間行事 ～

○生徒会活動（対面式・生徒総会・生徒会役員選挙・3年生を送る会）

○進路学習会

○中学校との交流

○校外学習

○食育学習会



「生活単元学習」作業的な内容の学習
作業に対する姿勢や意欲を育てるために、年間を通して取り組んでいます。



「自立活動」運動「ボールスライダー」
身体感覚や視覚・聴覚刺激を全身で感じながら、楽しく活動しています。

(3) 高等部

1 目標

「生徒個々に応じた生きる力を培い、社会の一員としての自立を支援する」

2 高等部が大切にしている取り組み

(1) 教育活動

- ・ 個別の指導計画に基づき、確かな力をつける学習活動を展開する。
- ・ キャリア教育の視点に立った学習活動を推進する。

(2) 進路支援

- ・ 社会的・職業的自立を目指した進路指導を推進する。

(3) 交流及び共同学習

- ・ 他校の高校生との交流及び共同学習の充実を図る。

(4) 保護者との連携

- ・ 個別の指導計画への保護者の参加と、よりよい協力関係を構築する。

(5) 地域・福祉

- ・ 医療・福祉・労働機関との連携を図る。

3 主な年間行事と学習の様子

高等部は、自立と社会参加を目指し、学習している。教科学習や校内実習、産業現場等実習、福祉サービス体験などを通じて、希望する進路の実現に必要な力を身に付けることができるように取り組んでいる。

～ 年間行事 ～

○生徒会活動（対面式、生徒総会、生徒会役員選挙、予餞会等）

○校内実習、産業現場等実習、福祉サービス体験

○校外学習、修学旅行

○先輩と語る会

○高等学校交流



「作業学習」

社会で必要とされる基本的な力を日々の学習の中で学び、身に付けることができるよう取り組んでいます。



「校外学習」

仲間と一緒に様々な、社会体験を行いながら、学習を深めます。

(4) 訪問教育部

1 目標

- (1) 小・中・高各学部の目標に準ずる。
- (2) 家庭・関係機関と連携し、体調に配慮しながら、個に応じた指導にあたる。

2 訪問教育部が大切にしている取り組み

- (1) 在宅・施設訪問教育（訪問つばさ）
 - ・ 学習活動を通して興味・関心の幅を広げ、生きる楽しみを感じることができる。
 - ・ 家庭・関係施設との連携を深め、体調に合わせ、健康で安全な学習活動を進める。
 - ・ 各学部と連携し、学校行事やスクーリング等への参加を計画的に実施し、同年代との交流を図る。
 - ・ 個別の指導計画を複数の視点で作成・実施・評価し、個に応じた指導の充実を図る。
- (2) 医大小児科病棟等訪問教育（訪問あおぞら）
 - ・ 健康回復・改善に努め、病気や困難に負けず希望をもち明るく生活する心を育てる。
 - ・ 児童生徒の実態に応じた、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図る。
 - ・ 関係機関（保護者・岩手医科大学附属病院・居住地校等）と連携し、一貫性のある支援に努める。
 - ・ 体調に配慮しながら適切な学習環境を整え、教育効果の向上を図る。
- (3) 医大子どものこころ病棟訪問教育（訪問てんくう）
 - ・ 障がいや病気を理解する気持ちや生きる喜びを育て、一人一人の可能性を伸ばす。
 - ・ 生活のリズムを整え、健全な心と身体を育てる。
 - ・ 学ぶ喜びを知ることを通して、学習経験の拡大を図る。
 - ・ 教師との関わりを通して、コミュニケーション能力の向上を図る。

3 主な年間行事と学習の様子

障がいや病気のため、学校に通学することが困難な児童生徒を対象に、家庭や施設（県立療育センター、みちのく療育園メディカルセンター、岩手医大学習室）で学習をしている。興味関心を広げ、豊かな生活を送ることを目指す。

～ 年間行事 ～

- 在宅、施設、医大学習室での儀式行事
- スクーリング（学校に登校しての学習）
- 校外学習
- 複数訪問
- その他各学部行事



「自立活動」在宅での訪問授業
体調に合わせて様々な感覚を体験したり、気持ちを表現したりすることに取り組んでいます。



医大学習室での授業
岩手医科大学附属病院内の学習室で、健康の回復をめざしながら学習しています。